

# 平和は「ナガサキ」から

## —戦後 70 周年を迎えて—

### (1) 被爆都市「ナガサキ」

1945年8月9日午前11時2分、長崎に原子爆弾が落とされた。たった一発の原爆によって長崎の街は壊滅的な被害を受け、多くの尊い人命が奪われた。あの惨劇から今年で70年。今でも原爆による後遺症だけでなく、心の傷で苦しんでいる人々がいる。その一方で年月が経つにつれ、戦争を経験した人や被爆した人もだんだんと少なくなり、今の日本ではこの戦争の悲劇の記憶が次第に薄れているように感じる。私たちは絶対にこの悲劇を忘れてはならないのではないか。

被爆都市である長崎で生まれ育った私は、小さいころから毎年必ずと言っていいほど、被爆者の話を聞き、写真や映像、残されたものを見ることで、平和について深く考え、戦争と原爆の恐ろしさについて学んできた。そして長崎に生まれ、長崎で暮らす、あるいは暮らしていた多くの人々にとって、8月9日は大切な日であり、平和や原爆について考えることは当然のことであり、また身近なことであろう。核廃絶と今後の世界平和を心から願っている。

このレポートでは、私たちが原爆や平和について考える際にどのように地方自治体が関わっているのかについて、市が行う式典や平和のための活動の面と、学生など若い世代に対する教育の面の、二つの面から考察していく。

### (2) 市の平和への取り組み

長崎市では、毎年8月9日に原爆犠牲者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈って長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を挙げており、原爆犠牲者の遺族や、多くの市民が参加する。11時2分になると、県内中で一斉にサイレンが鳴り出し、式典に参加している人のみならず、長崎県民全てが1分間の黙とうをささげ、被爆者と世界平和のために祈る。式典では長崎市長が平和宣言を行い、その宣言は、国連加盟の各国元首をはじめ、全国の地方公共団体などへ送られる。同時にインターネットを通じ全世界に発信され、核兵器廃絶と世界恒久平和の確立を訴え続けている。夜になると、市内の流れる浦上川で灯籠を流し、平和公園でキリスト教信者たちがミサを捧げるなどと、この日は長崎のほとんどの人が戦争や原爆、そして平和について深く考え、祈る1日であり、宗教を越えた一体感があるように感じられる。

また、さまざまな平和推進事業も行われている。今年は戦後70年ということで「継承と発信」をテーマに被爆70周年記念事業が実施された。映像の鑑賞や写真、演劇、音楽などを通して、戦争を経験していない私たちも、戦争の恐ろしさや、平和や命の尊さを感じることができる。そして、今年初めて青少年の国際会議である「世界こども平和会議」が長崎市で開催され、122の国や地域から約230名の青少年が参加した。被爆の惨状や平和の尊さを学ぶとともに、国際交流を通して言葉や文化の違いを超えて相互理解を深めること

が目的であり、長崎から世界に向けて平和を発信した。

## (2) 若い世代への平和学習

前節では市の取り組みについて述べたが、ここでは教育の面に焦点を当て、学校ではどのような活動がなされているのかについて述べていく。

昭和46年より8月9日は、長崎の全校登校日に設定された。現在では、長崎市だけでなく、長崎県下全ての小学校・中学校・高校において、各校で「平和祈念式典」や「平和集会」などが行われており、当たり前だが被爆体験のない子どもたちが、被爆者の心に寄り添い、平和を祈る1日である。

1年間のうちで8月9日の1日だけでなく、長崎の子供たちは戦争や原爆について学ぶことが多い。それが社会科の授業である。原爆についての映像を鑑賞したり、被爆者の方々の話を聞いたり、市が管理する原爆資料館に見学に行ったりと、さまざまな活動を通して学習している。また、被爆体験を継承し、平和の大切さを発信できる児童生徒の育成に努めることを目的として、長崎市が平和学習資料「平和ナガサキ」や、紙芝居、絵本を作成し配布している。

被爆した方々が少なくなってきた今日において、この事実を後世に伝えることができるのは、被爆者から直接話を聞き、資料を見ることができる若い世代しかいない。原爆の悲劇を風化させず、また被爆2世、3世である私たちも世界に平和を伝えることができるよう、以上のように積極的に平和学習を行っている。

## (4) 核廃絶に向けて

「改めて、長崎から呼びかけます。オバマ大統領、そして核保有国をはじめ各国首脳の皆さん、世界中の皆さん、70年前、原子雲の下で何があったのか、長崎や広島を訪れて確かめてください。被爆者が、単なる被害者としてではなく、“人類の一員”として、今も懸命に伝えようとしていることを感じてください。日本政府に訴えます。国の安全保障は、核抑止力に頼らない方法を検討してください。アメリカ、日本、韓国、中国など多くの国の研究者が提案しているように、北東アジア非核兵器地帯の設立によって、それは可能です。未来を見据え、“核の傘”から“非核の傘”への転換について、ぜひ検討してください。」これは今年の平和宣言の一部である。ここに見られるように、日本だけでなく、世界各国に対しても核廃絶を訴えた。また、ヒロシマ・ナガサキ平和アピール推進委員会を設立し、平和首長会議を行ったり、ヒロシマ・ナガサキ原爆展（海外原爆展）を開催したりと、唯一の被爆都市である広島市と長崎市が協力して、核廃絶に向けた活動に取り組んでいる。

原爆がこの世に生まれ、この長崎の地に地獄をもたらしたことは忘れてはならず、繰り返してはならず、許してはならないことである。今、日本は戦争もなく、戦禍におびえることもない。それが「原爆投下」という被害の上に成り立っているということを決して忘れず、この平凡で、しかし確かに生きていることを感じられる今日の日々を、大切にしていきたいと思う。そして、「核」の廃絶と平和を願う活動を、日本だけでなく世界すべての国々に届けなければならない。原爆を経験したからこそ伝えられることもあるだろう。「伝承と発信」、それが今を生きる私たちの使命である。平和は「ナガサキ」から。